

Nasushiobara International Association News



Vol.47

国際交流協会だより 2017.12.20

発行 / 那須塩原市国際交流協会広報委員会 (事務局: 那須塩原市企画部秘書課内 Tel:0287-62-7324)

平成 29 年度市海外姉妹都市交流促進事業に参加して

9 月 14 日から 20 日まで当市海外姉妹都市交流促進事業に参加しました。

目的は東京オリンピックの時に当市がオーストリア共和国のホストタウンとして、承認してもらうためのオリンピック委員会との協定締結・姉妹都市リンツ市での今後の交流事業についてルーガー市長との話し合い・中学生海外交流事業でお世話になっているLISA Auhof 校の訪問・現地で今までの交流事業に協力してもらった青木周蔵の曾孫ナタリーさんのご子息ニクラス・サルム伯爵をはじめ、たくさんの市民へのお礼の会見等盛りだくさんなスケジュールで、毎日ダークスーツを着たフォーマルな旅でした。最初の訪問場所ウィーンの日本大使館ではビックリしました。それは当市とリンツ市の交流中学生の第 1 期生がこの大使館で勤務しており、大使との会見に同席していたことです。小井沼全権大使のヨーロッパの現状説明が終わった後その女性が、「私は那須塩原市の出身です」と言って、そのいきさつを話しました。君島市長をはじめみんな我が市の交流事業の成果に感動して大使館を後にしました。リンツ市に移動してから旧市庁舎で行われたルーガー市長と当市長との話し合いは大変実りあるものでした。内容は現地ケプラー大学への留学提案・当市の市民マラソンの入賞者のリンツ派遣・国際交流団体グローバルカルチャー那須のリンツ公演などへの助力願い・君島市長が市内にあるスキー場にオーストリアのスキー講師や選手の派遣要望をしたら、ルーガー市長から両市のスキー大会の開催提案等具体的な話で、国際交流協会から派遣された私には感動の場面でした。その日の午後は、中学生交流事業でお世話になっている LISA Auhof 校への訪問でした。校長先生のお話の中で、もし那須塩原市からの留学希望者がいれば特別の考慮をする旨の発言は、学費も年間 7 万円ぐらいなので何とか実現したいと思いました。リンツ滞在最終日の午後は青木周蔵子爵の子孫サルム伯爵邸シュタイレック城の訪問と、そこで開かれた夜の現地関係者・関係団体の人々との晩餐会でした。中世に建築されたお城の中は明治時代の日本関係の骨董品が飾られ、青木と彫刻された日本刀も展示されていました。会食前に同行したこちらの団体 (ライオンズクラブ・ロータリークラブ・ソロプチミスト・体育協会・文化協会・国際交流協会) は現地の同じ団体の人々と交流しました。残念ながら現地には当協会のような組織はありませんでした。鹿肉のステーキで始まった晩餐会の私の席の周りの方々は、国際交流現地支援員として、塩月津也子さんのご主人ヨハン・グルテンブルナーさんの友人の方々に、彼らは来年那須塩原を訪問する計画があるとお聞きしました。その時はぜひ当協会でも歓迎の宴を開きたいと思いました。最後に今回の訪問団に参加して今後の当協会での活動の希望を書きます。

1. まだ市民への認識が少ない当協会として、今回参加した各団体と連携を取って異文化交流活動の大切さを訴えていきたい。
2. オーストリアのリンツ市が姉妹都市であることを市民に知ってもらい、お互いを知るために現在行われている両市の中学生訪問交流だけでなく、広く市民が行き来することによりお互いの国を理解して、国際平和の一助になるべく当協会が率先して活動していきたい。
3. 国際交流はなるべくたくさんの国との交流によりその目的が達成されるので、今後も機会があればアジアの国々をはじめアメリカ大陸の国とも友好関係を作るべく、みんなと努力していきたい。

企画委員長 田嶋俊一



オリンピック委員会締結



日本大使館前

● 外国語委員会



◆ドイツ語：現在、火曜日午前講座、木曜日夜間講座を開講している。

11月までの1クールが終了後、引き続き、1～6月の継続を予定している。

新規募集については未定であるが、次年度から実施の方向で検討する。

◆英語：10～12月各第2、第4月曜日、6回で開催する。引き続き、1～3月同様に6回の講座開講を検討しているが、講師の先生に相談しながら、持続性を如何に保持するかを検討する。

◆フランス語：アリスパッキエ先生の渡米により、講師が未定である。

予定者があるとしても、交通費等を考えると、尚問題があるので検討中である。



英語講座の開講。講師は協会の杉本さん

● 日本語教室委員会

おかげ様で、火曜日のクラスが学習者から大変好評です。さらに別の外国人を連れてやって来るということが増え、教室に入りきれないほど盛況です。毎回席と机が足りず、他の部屋から借りながらも、楽しく学習しています。この調子だと昨年度の延参加者数の700名を越える勢いです。木曜日クラスは少ないですが、情報交換を目的として参加する方が多く見られます。

◆日本語教室：11月に行われた「なしお博」にて生徒作品（作文）を展示しました。日頃の勉強の成果を披露するため、一生懸命取り組みました。

また、一部の学習者は12月3日に開催された「日本語能力試験」に向けて猛勉強しました。今年は7名受験。

◆その他お知らせ

日本語委員会では「毎月第1週の火曜日18時30分から 東那須野公民館」で日本語ボランティア同士の意見交換・その他会議を開催しております。

食文化交流



10月6日 那須拓陽高校食物科

異文化交流（食文化）授業が那須拓陽高校で開かれました。講師は市国際交流員のフロリンさん。オーストリアを紹介し、スイーツ作りの実習を通して生徒と交流。広報委員も参観させていただきました。



リンツァートルテ

● リンツプロジェクト委員会

2017年、ホームステイ活動について

2017年5月10日から13日まで、米国のテネシー州立大学の学生7名と先生2名が昨年に引き続き那須塩原市を訪問滞在しました。

この間会員の協力により「寿司にぎり体験」、「高校英語授業参加」、「市民との交流」、「ホームステイ体験」と盛りだくさんの異文化交流スケジュールをこなしました。今年も3週間の日本研修旅行の中で那須塩原市が一番の思い出になりました。特に、希望した初めての日本でのホームステイ体験は大学にもどってから、日本語クラスで話題になったそうです。

受け入れのホストファミリーの方々には急なお願いにも関わらずスムーズな対応を戴き順調な受け入れ有難うございました。

この様な依頼に対しては、その都度内容に応じてホストファミリーを募集させていただき、少しずつリストづくりを進めていきたいと考えています。ホームステイに関してはリンツ市に限定しないでご協力いただける市民の方々に体験して戴き、異文化交流、国際感覚が身に付く機会になればと考えています。

● 企画委員会 ミュージック&ダンス 12月3日：於 石山



Dream Treasure☆、Dance Studioによるダンス



ファミリーブラスバンド マムソウルの演奏



ウクライナの方



モンゴルの方



モンゴルのお店



ワークショップ
市国際交流員、
フロリンさんの
ブース



フィリピンのお店



ブラジルの方



日本のお店



ブラジルのお店

次世代へ響く「高校生は今！」 黒磯南高等学校

みなさま、こんにちは！ 黒磯南高等学校では、「自他を重んじ、国際感覚に富む生徒」を「育てる生徒像」の1つとして掲げ、国際理解教育に取り組んでいます。具体的な活動としては、国際理解講演会の実施・アメリカへの海外短期研修・海外の修学旅行生との交流などです。

まず国際理解講演会の実施についてですが、毎年「創立記念式典」の際に実施しています。今年度は（株）マザーハウス代表取締役である山口絵理子氏に「志をカタチに～途上国から世界に通用するブランドをつくる」という演題で講演をいただきました。また、10月には一般社団法人 アジア支援機構代表理事の池間哲郎氏に「懸命に生きる人々～日本人こそ学んで欲しい～」という演題で講話をいただいています。どちらも映像を交えた非常に興味深い講話で、生徒たちに刺激を与えていただきました。

アメリカへの海外短期研修は平成元年3月に開始し、今年度で29回目を迎えます。アメリカ カリフォルニア州のプラサー高校で英会話クラスに参加したり、現地の高校生や小学生に日本文化の紹介をしたりします。ホームステイを行うため、ホストファミリーと交流する時間も充分にとることができ、参加者にとっては、異文化を体験する貴重な機会になっています。その他、台湾や中国の修学旅行生との交流や、アジア学院の学生さんたちとの交流も随時行っています。（記事提供：黒磯南校 国際理解教育担当：星野先生）



会員紹介

エリシバト さん

額日斯巴図エリシバト eresbat



エリシバト

中国・内モンゴル自治区シリングル草原生まれ、レスリング、キックボクシング、テコンドー等習っていました。2002年4月に来日し留学に来る直前まで内モンゴルの代表として全国テコンドー選手権に出場していて、一番良い成績は全国3位でした。2006年に宇都宮共和大学を卒業して、2016年11月まで会社勤め、今年の冬1月から妻と二人で、那須塩原市内にラム肉を中心とした家庭料理の飲食店を開いて、地元の方々と助け合いながら頑張っております。中1の娘と3歳の息子の4人家族で幸せに暮らしています。

（記事欄外左のサインは自筆）

編集後記

2017年も師走に入り、年の瀬も押し迫ってまいりました。世相を反映した、「・・・大賞・言葉」で話題が尽きぬこの頃ですが、協会だより47号は皆様方のご協力により無事発行となりました。

未経験者の集まりでの2作目で、内容についてはまだまだ至らないところがあり、ご不便・ご不満もあるかと思えます。皆様方からのご指導と更なるご協力を得て、来るべき2018年も広報委員一同頑張りますので宜しくお願い致します。（広報委員一同）